

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハミング ことばとからだところの教室		
○保護者評価実施期間	2024年 4月 1日		2024年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34人	(回答者数) 27人
○従業者評価実施期間	2024年 4月 1日		2024年 12月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 24日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもひとりひとりが楽しんで通うことができる場所である。	初めて利用する児であっても安心して、楽しく通うことができるように、好きな遊びやキャラクターなどを把握して中に入りやすい空間を作っている。	児が部屋に入って、何をやる部屋なのか、どのように過ごす部屋なのかをより分かりやすくすることでより安心して、楽しく過ごすことのできる空間にする。
2	児ひとりひとりに合わせて活動プログラムを組んで提供できている。	アセスメントや見学、体験の状況からどのような取り組みが必要なのかを考えて提供している。似たような課題を持つ児であっても好きなことやものは違うため、細かく変えている。	個別性の高いプログラムは維持しつつ、小集団でのやり取り、社会性の向上を目指していく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員と児で療育を行うことがメインとなっているため、保護者に対して、室内の様子があまり伝えられていなかった。	通信で児の様子は載せていたが室内の状況まで意識が回っていなかった。 室内を見ることができるといった機会を作ったり、伝えたりしていなかった。	通信または、連絡網を使用して、室内の様子が知りたい場合は職員に伝えてもらい、実内を見てもらう機会を設定する。 特に療育が行われていない時間であれば随時行う。
2	保護者間で交流できる機会や場所の提示ができていなかった。	職員と児の保護者の関係に注目が集まり、保護者間のつながりの意識が薄かった。 法人内で児童を対象とした保護者会を作っておらず、必要性が無いと思っていた。	連絡網ツールでアンケートを取り、交流会の希望や、どのような観点で関わりを増やしたいのかを確認し、状況に合わせて会の開催を行う。
3	職員間での打ち合わせの時間があまり取れておらず、個人に任せて活動の企画を行っていた。	送迎や療育の時間のずれにより、職員が集まる事のできる時間を作れていなかった。	職員の動きや、療育時間の調整を行い、決められた時間に打ち合わせを行うようにする。 活動内容についても打ち合わせの時間に他職員から助言を盛りこめるようにする。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ハミング こぼとからだとこころの教室

公表日 2025年 2月 1日

利用児童数 2024年 12月 31日 34名

回収数 27枚

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	25	0	0	2	移転してから活動室を見ていないのでわからない。 こぼとの部屋以外は見えていないのでわからない。	月に1回発行している通信に部屋の様子が分かる画像を掲載する。 見学の希望は随時受け入れを行い、職員のご案内の元、活動室を見ることができるようにする。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	24	0	0	3	個別療育のみのため、わからない。	現在、配置基準以上に職員を配置しており、言語聴覚士や理学療法士も配置している。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	23	0	0	4	小さなホワイトボードに1日の流れを書いていて、本人が何をやるのかが分かりやすい。 移転してから活動室を見ていないのでわからない。	上記の通り、見学等で室内の様子が保護者の方にも分かるように対応する。 段差については体の動きの練習のため、意図的に無くしていない部分もある為、この点も通信や直接の会話で伝えてい
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	25	0	0	2		今後とも清潔を保つための掃除や内部の整理を行っていく。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	27	0	0	0		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	26	0	0	1		連絡網ツールや通信を使用して公表されているプログラムを周知する。
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	27	0	0	0		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	27	0	0	0		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	26	1	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	24	0	0	3	毎回違った教材を使用したりして、目標に対して様々な角度からアプローチしてくれている。	個別支援計画書に記載している活動から同じ活動ばかりにならないように、メンバーや日ごとに組み合わせを変更して行う。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	12	2	2	11		隣接している保育所と季節行事がある際に参加をしてもらうことで、交流を深める
保 護 者 へ の 取 組	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	27	0	0	0		
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	27	0	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10	2	2	13		保護者間で情報共有や繋がり持てる会が必要かアンケートを取り、結果に合わせて会の開催をする。 家庭でも行える支援方法について、通信に内容を載せていく。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	27	0	0	0		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	25	0	0	1		送迎時、連絡帳経由で困り感がないかを聞くようにする。 内容によっては直接話を聞く場を作り、相談を行う。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	27	0	0	0		

明等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	2	5	3	17	もし保護者同士の交流の場があったら知りたい。	問14と同様に希望を確認して保護者同士が交流できる機会を作る。 けやき祭りを中心に法人の行事を知らせることで、家族、兄弟との交流が持てるようにする。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	23	1	0	2		相談・苦情受付箱が使いやすい位置にない為、現在の出入り口付近に設置し、設置したことを連絡網で知らせる。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	25	0	0	1		今後も実物提示や絵カード、ハンドサインを使い、意思疎通ができるようにしていく。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	25	1	0	0		自己評価は法人ホームページ上に公開されていることを連絡網ツールと通信を使って周知する。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	25	1	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	17	0	0	9	訓練はわからない	出入り口に掲示を行い、周知を進める。 訓練やマニュアルの更新があった場合は通信でお知らせする。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	13	0	0	13	訓練はわからない	避難訓練は定期的に行っている為取り組み内容については通信で周知する。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	23	0	0	3		出入り口に掲示を行い、周知を進める。 訓練やマニュアルの更新があった場合は通信でお知らせする。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	19	1	0	6	事故発生していないためわからない。	契約時にお伝えしている。その際に緊急時の対応とそうでない場合の対応方法をお伝えしている。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	25	1	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	24	2	0	0	職員が迎えに行く日は楽しみにしているが、親が送迎をする日は気が乗らない。	家庭の状況や本人の状況によって送迎や利用時間等の変更できるようにする。
	29	事業所の支援に満足していますか。	25	1	0	0	まだ集団での支援が未なので、現時点ではどちらとも言えない。 本人のペースに合わせて活動等していただけなのでありがたい。	家庭の状況や本人の状況によって送迎や利用時間等の変更できるようにする。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ハミング ことばとからだところの教室		公表日		2025年 2月 1日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	1		・物の配置を変更し、必要時広い空間を使用できるようにする。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	1		・職員研修等を行い、こどもの状態や複数人の支援が適切に行えるようにしていく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2	3	・バリアフリーでない場所は、足を上げる練習等に使用し、日常生活での体の動きの向上を支援している。 ・スケジュールボードなど視覚で確認できるようにしている。	・その時に利用している方に合わせて繰り返し構造化をしていく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	1			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	1	4		・視覚的に遮り、ゾーニングを行い個別に対応できる空間を作る。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	2	・MTG時間を設定し、話し合える機会を増やしている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	・年に1度事業所評価を行い、職員全体で改善案を検討している。	・職員に対して評価表について周知する。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	2	・MTG時間を設定し、話し合える機会を増やしている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	3			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0	・毎月研修を行っている。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5	0			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3	2		・児発管、担当職員、STを含めた検討会議を行う。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3	2		・記録用紙保管場所に計画も保管をし、計画を確認後、次回の療育内容を検討する。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1		・通常のアセスメントツールと、新しく導入したアセスメントツールを使用していく。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	1	4		・大まかな活動はチームで立案し、個別の計画は支援検討会議で行なっていく。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0			

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4	0		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	2	3		・MTGを昼に行っているため、当日午後分と次の日の午前分の支援について検討する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	0	5		・MTGに合わせて行う。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	1		・カメラの記録も活用し、ケース会議やMTGで使用することで支援の検証、改善を行っている。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	1		・定期的な面談を行う。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	2		・定期的な面談を行い情報共有をする。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	1		・就学児引継ぎシートで情報共有を行っている。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外務研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	1	4		連絡会議や研修会に参加することで児童発達支援センターと情報の共有や困難ケースは助言を受けるようにする。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	0	5		児発管、担当職員が児の通う園に見学に行き、園との交流を深める。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	0	5		送迎時、連絡ノートから保護者の困り感を汲み上げていく、場合によっては児の療育現場を見てもらいつつ、どのように対応しているのかを伝える。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	1		契約時に支援プログラムについても説明を行うようにする。 直接保護者に説明を行わない職員も内容について説明ができるように内容の勉強会を行う。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4	1	面談時に保護者の意向を聞き、必要に応じて計画書の内容を変更している。	直接行わない職員もどのような流れで計画書の作成が行われているかを知る為の勉強会を行う。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4	1		直接行わない職員もどのような流れで計画書の作成が行われているかを知る為の勉強会を行う。

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4	1	現場職員で対応できる内容についてはその場で答えている。すぐに返答できない場合は児発管や他職員と共有し、検討と報告を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	0	5		けやき祭りなどの法人行事を主に保護者さんへ情報発信し、家族、兄弟間の交流が生まれるようにする。 連絡ツールを使い、保護者間の交流についての希望を確認し、結果に合わせて交流会の開催を行う。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5	0		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0		
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	3		季節の行事を行う際に隣接している保育所の児を招待する等、近い場所から事業所の取り組みを知ってもらう。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	2		訓練は定期的に行っているため、内容をより現場に近いものになるようにしていく。 マニュアルについては保護者が確認できるように掲示をする。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	1		非常災害時の想定を広げてあらゆる場面に対応できるように訓練を行っていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	3	1	服薬の有無や症状については契約時にフェイスシートに記入してもらっている。内容が変わる際は面談時を含めて伝えてもらっている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	1	2		提供している時間に食事を出さないため、対応していない。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	1		決められている避難訓練がほとんどのため、その他安全にかかわる訓練を行っていく。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	2	3		通信等で安全計画の取り組みについて毎月発信していくことが必要だと感じる。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	1		自身がヒヤリハットを作成することを忘れてしまう。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	0			